

募集要項

参加費

①会場参加

社会人 15,000 円、学生(会員校) 6,000 円、学生(一般校) 7,000 円
※会場参加の参加費には宿泊・食事代・資料代、消費税を含みます

②Zoom を用いたオンライン参加

社会人 6,000 円、学生(会員校) 1,000 円、(一般校) 2,000 円
※オンライン参加の参加費には資料代、消費税を含みます

募集について

募集開始 2022年7月1日(金) 募集締切 2022年11月3日(木)
応募方法「大学セミナーハウスHP申込フォーム」よりお申し込みください
<https://iush.jp/seminar/2022/05/488/>

詳細・申込ページ



古田武彦記念 古代史セミナー 2022

「聖徳太子」と「日出づる処の天子」

開催日時 2022年11月12日(土)～13日(日)

開催形式 会場参加とZoomを用いたオンライン参加の
同時双方向型ハイブリッドセミナー

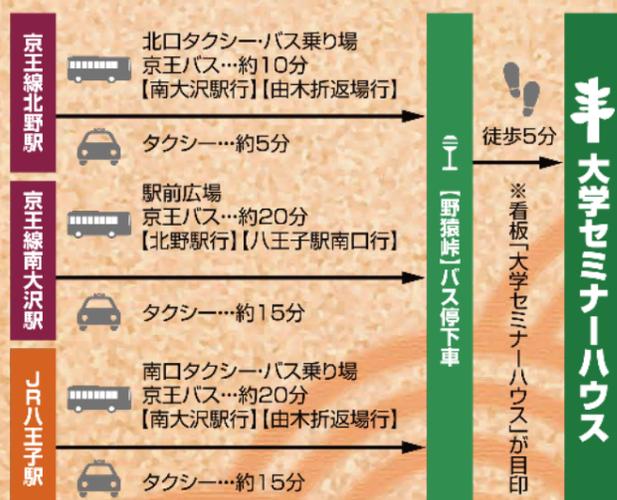
対象 古代史に関心のある方ならどなたでも

開催場所 (会場) 公益財団法人大学セミナーハウス
東京都八王子市下柚木 1987-1
(オンライン) Zoom ミーティングルーム

主催 公益財団法人大学セミナーハウス

共催 多元的古代研究会 / 東海古代研究会 / 東京古田会 / 古田史学の会

◆アクセス



お問い合わせ

公益財団法人大学セミナーハウス セミナー事業部

Tel : 042-676-8512 (直) Fax : 042-676-1220

Email : seminar@seminarhouse.or.jp

ホームページ : <https://iush.jp/>



2013年第十回古代史セミナー

古田武彦記念古代史セミナー 2022

「聖徳太子」と「日出づる処の天子」の時代

「古田武彦記念古代史セミナー」は、卑弥呼の時代（3世紀）、倭の五王の時代（5世紀）と続き今回が5回目となります。今回は「聖徳太子」と「日出づる処の天子」の時代（7世紀）に焦点を当てることにしました。

「聖徳太子」は、1930年以来1986年まで、7回（百円札4回、千円札、五千円札、一万円札各1回）に亘り高額紙幣の顔として、日本人の懐を暖かくしてくれる「有難い存在」であり続けました。その「聖徳太子」は、冠位十二階や十七条憲法を定めるなどの偉大な業績を残す一方で、遣隋使に託した国書に「日出づる処の天子書を日没する処の天子に致す恙無きや」と書いて煬帝を激怒させたという話もよく知られています。しかし、「日出づる処の天子・・・」と書かれた国書に関する記述が正史である『日本書紀』に見られないのはどうしたことでしょうか。相手を怒らせたからでしょうか。

一方、(百衲本)『隋書』倭国伝には、「倭王姓阿每字多利思北孤號阿輩雞彌」が隋に使者を遣わし、国書には「日出處天子致書日没處天子無恙云云」と書かれていたと記されています。「(百衲本)『隋書』倭国伝に「倭王姓阿每字多利思北孤號阿輩雞彌」と記されている人物」=「聖徳太子」であれば話は簡単ですが、両者の属性を比較すれば一致しないものばかりです。一般に、2人が同一人物であることを証明するのは非常に難しいのですが、異なる人物であることの証明は簡単です。一致しない属性が一つでもあれば同一人物ではありません。それどころか、「聖徳太子」に関しては、存在すら疑われている有様です。

物語として古代を語るのには夢がありこの上なく楽しいのですが、古代史学においては科学的な「史実」の確認が基本であり、その作業は客観的且つ evidence-based でなければなりません。今回のセミナーでは「聖徳太子」と「(百衲本)『隋書』倭国伝に「倭王姓阿每字多利思北孤號阿輩雞彌」と記されている人物」に焦点を当てることにより、7世紀の真実の歴史に迫りたいと思います。

今回のセミナーは、嘗て50年以上に亘って日本人の懐を暖め続けてくれた「聖徳太子」が架空の人物であるという大山誠一先生による「衝撃的な」研究成果をお聴きすることから始めたいと考えました。

このセミナーでは、大山先生の特別講演をお聴きした上で、古田先生の古代史学の研究方法を再確認しながら、「日出づる処の天子」の時代の evidence-based history について建設的な議論が盛り上がることを期待しています。

このセミナーは、研究者のみならず、古代史に関心を持つ全ての人を歓迎します。このセミナーが、若い人々が真実の古代を覗く窓になれば幸いです。

このセミナーは、大学セミナーハウスと多元的古代研究会、東海古代研究会、東京古田会及び古田史学の会が共同で開催します。

実行委員長 荻上 紘一

◇委員◇ 大越 邦生
大墨 伸明
荻野谷正博
橋高 修
西坂 久和
畑田 寿一
富川ケイ子
和田 昌美



スケジュール

11月12日(土)

11:30～ 受付・昼食
13:00～ 開会
13:30～16:30 特別公演(大山誠一先生)
・ディスカッション
16:45～18:00 論点整理(大越邦生委員)
18:00～ 夕食
19:00～21:30 情報交換会

11月13日(日)

9:00～12:00 セッションⅠ
- 隋書を徹底して読む
12:00～ 昼食
13:00～16:30 セッションⅡ
- 日本の文献を徹底して読む
16:30～ 閉会・解散

特別講演 「日本古代史と聖徳太子」

おおよま せいいち
大山 誠一

七世紀までの日本古代史の研究は、日本書紀を肯定的に評価するか、厳密な史料批判を求めるかで立場が分かれる。坂本太郎以来の前者では、六世紀末に突然中国的素養豊かな聖徳太子が登場し日本の行く末を示す。太子没後、その理想を継いだ中大兄と中臣鎌足らが反対派の蘇我入鹿を滅ぼして大化改新を断行する。その後、七〇一年に大宝律令が編纂されて中国的律令国家が完成すると説かれる。しかし、津田左右吉以来の書紀に対する懐疑的立場も健在である。特に、中国との交流がなかった時代に、不世出の偉人の聖徳太子が登場するというのは学問的ではあるまい。それに、大化改新詔は大宝令の知識で作られたものであり、当時の日本が律令国家を目指していたかも疑問である。書紀の虚構性は明らかである。とすれば、古代の真実はその虚構そのものの解明にあると言えよう。



大山誠一先生プロフィール

1944年、東京都生まれ。1975年、東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。1999年、博士(文学)。中部大学名誉教授。専攻は日本古代政治史。

主な著書に『古代国家と大化改新』(吉川弘文館、1988年)、『長屋王家木簡と奈良朝政治史』(吉川弘文館、1993年)、『<聖徳太子>の誕生』(吉川弘文館、1999年)、『日本古代の外交と地方行政』(吉川弘文館、1999年)、『聖徳太子の真実』(編著、平凡社、2003年)、『天孫降臨の夢』(NHKブックス、2009年)、『日本書紀の謎と聖徳太子』(編著、平凡社、2011年)、『神話と天皇』(平凡社、2017年)など。

講演

古田武彦氏の業績に基づく論点整理

そうだったのか「日出づる処の天子」 大越邦生

セッションⅠ 『隋書』を徹底して読む

【問題提起】『隋書』倭国伝の外交と『日本書紀』推古紀の外交との相反 大墨伸明
『隋書』倭国伝から倭国の領域を明らかにする 榛葉順一
多利思北孤は難波で裴世清を迎えた 服部静尚

セッションⅡ 日本の文献を徹底して読む

【問題提起】日本書紀と法隆寺系史料の中の「聖徳太子」 橋高 修
『伊予国風土記』所収の「温湯碑」が語る真実 合田洋一
七世紀の倭国と日本国 谷川清隆
多利思北孤が聖徳太子ではありえない。九州年号から証する。 中村通敏
考古史料から見る多利思北孤の国の姿 よみがえる九州王朝 大下隆司

各講演の要旨は
ホームページをご参照ください ⇨
<https://iush.jp/seminar/2022/05/488/>

